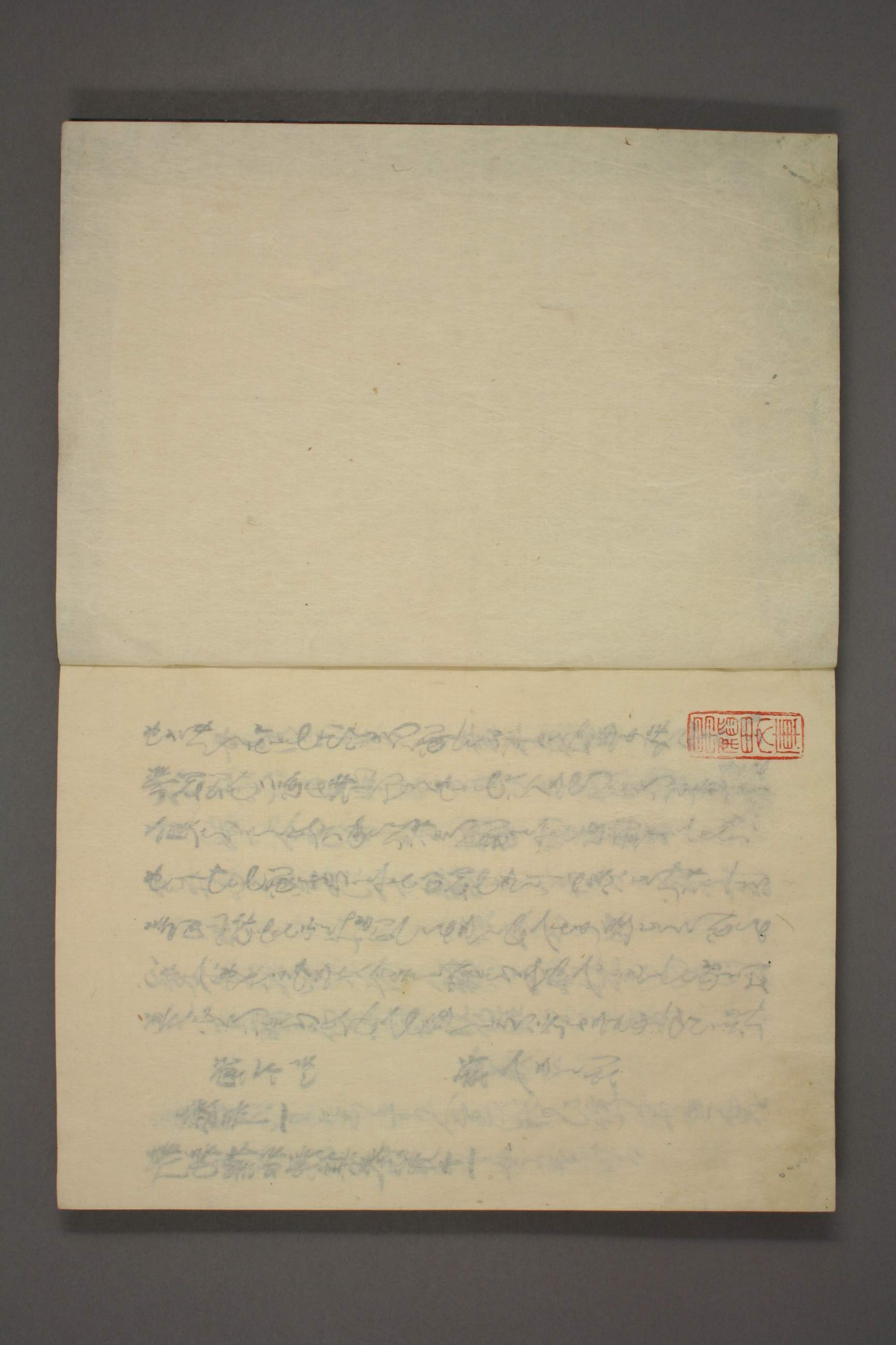
新勅撰和歌集 下

特別
へ4
8099
9(2)

N4
8099
9
(2)

〈2001-023〉



新勅撰和歌集巻第十一

戀歌一

須不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中納言朝忠

[illegible]

寺院伯法

[illegible]

大寧時敦道新王

和泉式部

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

藤原言文

[illegible]

頭[illegible]

道信朝臣

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

藤原義孝

[illegible]

けゝ付て遣ひ

大寧大貳る遠

日新ゝとゝ申すとみてゝゝるとうゝの元なる初ゝ此

影不知　影恒

山ゝひよたゝゝ早田の九ゝ稲ゝ河よりその遠ゝ勇ゝ

女よつゝゝまゝ　業平物語

神ゝ見て有まゝのかゝりかゝとゝわゝ見ゝ見ゝ

やゝ　よゝ人ゝゝ

宗ゝゝ行ゝゝ清重ゝ塩平ゝゝゝゝ

物ゝゝ　小町

漆入ゝ

みゝゝ紙ゝゝまゝの中ゝゝ漆ゝ

読人ゝゝ

いゝゝゝゝゝ酒ゝ綱ゝゝゝゝ

遠ゝゝ酒ゝ神ゝゝゝゝゝ

城河流　艶書ゝゝゝゝ

して遠ゝとゝゝ酒ゝ時読ゝ

権大納言公實

ゝゝ神ゝゝ

ゝ　康資王母

源ゝゝ清ゝゝ川ゝゝ

恵十首哥よむべきなるか

恵乃山とけさ小篠の露ふかく入そしるしるとぬるゝ袖哉

久安百首たまひける恵哥

侍賢門院堀河

かくてこそ思ひそめしかたとけさそ袖のつゆなる山にしたもとも

袖ぬるゝ山井の清ありいそそはしるとみるへ哉

皇太后宮大夫俊成

ちるはちる思ひそめしか松の末松よはるゝ袖なるらん

源川袖のみなとにわさかをりけるをれさをとれ袖

清輔朝臣

をしつゝ引ちしの日せをうら袖よりて人めやい初てよもん

日ろ恵をいそそ流ろ

二条院御時恵哥よみけるか

恵大納言宗家

人ゝ袖ぬるゝ恵てよせきろ初て袖よ為もろ八源ろ乃

百首歌よみけるか恵哥

前大納言資賢

初しをるかをれをとれ恵不そ重てつむ人をか為もろ源

家よ百首哥歌仙よみけるか

後法性寺入道前太政大臣

月のうちにてなりしのちよいてゆう

皇太后宮大夫俊成

おもしの花さいしを見るにかさなりて源氏物語

宜秋門院丹後

神のよに源氏いまはたりゆゑ人よりはけてはたらく

皇太后宮大夫俊成

ものあり卯月のいとをしろかりしかの月

新古今頼朝卿家合しのうふ歌てけりけり

慈円

いかゝしてたゝ色なくとも弱るとしのかなしさ

西行法師

ゆつまりや遊ぶの雲に屋とりて若ちをよりて

正三位家隆

人重源氏の方酒に屋くゆゑ頃日ものあるゆ

百さゝ子ものけりる意

宜秋門院丹後

いとあまりかしひ川よりとゝれて物を海し胸よりとゝて

源師光

見るゝ伊勢なの系小出あ

ゆんまりとゝ人をなりいとゝ

枝中納言定家

城河院は百首うたより少き歟

右中納言通房

藤原仲実朝臣

基俊

清輔朝臣

大納言通具

藤原俊成

紀貫之

参議雅経

右衛門督家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うらものしたつ波のたつむのうまこはまてたちぬ（され
ぬ）□波さんむ□□□□□て恋のそまて神よみ□ゆく
右実白家与合水寄絵恋
四三位藤隆
ふ□□□□□

道因法師

[illegible]

平重時

[illegible]

百首歌をよみて進ぜらるる

[illegible]

為氏法師

[illegible]

建保六年内裏に合歌

権大納言忠信

[illegible]

侍従奥定母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅撰和歌集巻第十二

戀歌二

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

藤原敏行朝臣

あやめにぬる袖をなにかたとへまし
夏草のつゆをしがらみかけとせ
ばや

下臈なりける時女のもとにつかはしける

清原元輔

あはぬよはあまたなれども
ひとりのみ
ぬるとしらばや

影しらば
山川の
あさてはやみなん
源宗于朝臣

女をみそめてのち
ものいはんとこころ
ざしけれども
なかなかにて
ものいはでのみ
すぐしてのち
つかはしける

滝口武

あくがれにしたましひ
なにかとこの
ものいはぬ
ものをもとめん

神なづきのつごもりの
ころ
女のもとにつかはしける

東三條入道摂政太政大臣

ぬれてかへるとて
なほ
ものいはぬ
ものをもとめん

新しく涙

本院伯法

[illegible]

道信朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右近大将道綱

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大炊御門右大臣

[illegible]

右京大夫孫補

年始[illegible]

城の院百そう[illegible]たてまつる時

[illegible]

権中納言国信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建仁元年八月の会合よ久恋

入道右大臣

[illegible]

[illegible]

つみくに

河内歌

[illegible]

建保六年四月庚申久恋

[illegible]

権中納言定家

恋をあぬ方よりとこそ年へぬるかの公にいさに

参議雅経

[illegible]

建保三年四大法家百首歌合

源有長朝臣

[illegible]

庚申久恋

[illegible]

[illegible]

歌不知

[illegible]

百首歌めしける時

宗法院内大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前関白家歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

殿留門院太宰

[illegible]

中務卿宮

いふかもしれぬ弥ますます
[illegible]
[illegible]
[illegible]

恋の百首詠ける

枕のもとにまかりてよもすがらの思ひをり

藤原行能卿

来迎寺僧

恋歌あまたゝび入けるに老にのぞむ人を恋川

うらみけるよさゝ浦はてのゝ三ゝ神たゝ

殷富門院大輔

累減院の時うゝをゝこゝも思恋ゝ

ゝゝ

皇太后宮大夫俊成

思ふ恋八浪こゝ波の涙いとゝ

坂河院の時殿上ゝ歌をゝゝ十首ゝ詠ける

ゝに塩竈とゝゝ

権中納言国信

ゝゝ恋ゝ

家ゝ百首ゝ詠ける

坂法性寺入道前関白太政大臣

ゝ恋ゝ

百首歌ゝ

入道前太政大臣

ゝゝ人のゝは

坂京極摂政家に百首ゝ

秋をへていむかしの月にとうかへりて
ふるさとのかたくまもなく秋の雲はらはらとのこる
影しる波
春の海の入江はゆくふねの帆にとまりて
女よそのうきなみ
人をまつ身にしられぬ草なれば忘れぬ秋の
夕ぐれをそのゆかしきつるぎ

右近中将公澄

右衛門督信輔

春の雨はるかにくもりなれば秋の雲はらはらとのこる

前内大臣公隆

正三位家隆

お大納言公隆卿

はるかにいかに思草をよそのうきなみ
影をさそうて
前中納言国通

下ふのこいそのの松のかげにかくれぬ草をしる
春の雨を秋の夕ぐれ
はるの雨をかくれぬ草をしる

春原頼氏朝臣

百首の内人の心をもつねにしるかぎり
百首の内人の心をもつねにしるかぎり

内大臣

閑白左大臣

百首の内の恋の歌

入道前太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保六年四月廿合題所

正三位知家

[illegible]

新勅撰和歌集巻第十三

戀哥

[illegible]

賀方朔法

大井川のかをるもしるき夏の夜の月の光を[illegible]

女房[illegible]

都芳門院安嬉

[illegible]

百首[illegible]

累法院四条

[illegible]

後法性寺入道前関白家百首歌合初遇恋

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

皇嘉門院別当

[illegible]

法性寺入道前関白家歌合

恋後

[illegible]

[illegible]

源通親

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源有長朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

相模

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なほ[illegible]神の[illegible]の一[illegible]をそなへ[illegible]その[illegible]の[illegible]

[illegible]とくもの気とうとく[illegible]暁ひく[illegible]なく

右近中将基良

いまはそかしもそれ[illegible]の[illegible]

前関白家[illegible]合小[illegible]島[illegible]

中[illegible]かね

[illegible]きのゆつを[illegible]

[illegible]

侍従奥定母

[illegible]

[illegible]

城[illegible]

[illegible]

[illegible]

源家長朝臣

[illegible]

法中幸清

[illegible]

藤原隆祐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権大納言實國

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源宗于朝臣

白雪のふりしきぬれば冬ごもりこもれる草の春をしぞまつ

女房たちとうたうたりけるついでに

藤原業平朝臣

秋なれば下ひもかくれぬるかなあかぬ色とぞ花のいろなる

延喜御製

影しき波

あるそのこ物はなるとなりあるあるある

題詠にて續伯父

うたの神のこころをしさ髮はえ

海京極殿家百首

柞中納言親宗

小伯父

雲とたり雨と成こそ男ふかけれ

いかのもの時々も髮よみてとこそ

題詠にて續伯父

題三位頼政

悉とて春はらの雨をなく

清浦朝臣

伊勢のしさ春のこころ

久安百首

侍賢門院堀河

髮はえて八人のもかたのねよいふかちくあるとあなかちん

百首

題詠

みなとはさ雲のうつふかくれてうらの中の長や後のん

柞中納言忠信

つきのの園はうきくいくひのるし春とて千のむくて春毎

影不知

春京永光

さりとともこたのひもの雲はうはしむ雲はうはしむ雲はうはしむ

所司代合　伯耆守忠直朝臣

藤原隆信卿

遠忠のんより内うこ遣ハ之て御ものを御いたを

海法性寺入道前関白家百首歌

後鳥羽院御

あらしの内のるて花へ之て　こ一枝をうふ何ていとをん

新しら波

よ見人をうら波

武蔵とのはるみ　うきなを　ものこゝ

二条院皇后宮常陸

之て秋の月　こ内の夕嵐　ものこゝ

ふ

建礼門院右京大夫

四ふ之ていろ人のこゝろ　ものこゝ

春よりていろ　ものこゝ

高松院右衛門佐

こ遣を文　内をとは知　ものこゝ

遠方領伯耆ふ

中宮内侍

いつをりとなしていろ遣夕　内をうれ

百首のうれ時

後京極摂政太政大臣

源とく神ふなしやあ　ものこゝ

うき私の　ものこゝ

月花をこの玉もの家よりの浪のうらに浦の神の

式子内親王

建保六年内裏歌合題

前内大臣

松浦や我方のうきに袖塩のうつれば人も身

権中納言定家

海人とまつの浦々多れよ屋くやもしほの身をこがれて

影〜次

恋ぬるこゝろ海人の塩干に玉藻のあまりふるそ神なれて

正三位家隆

ゆ浪の我方こゆ浪うこゝろ人の塩の路

平忠度朝臣

そのうちこゝの数をりのうらの月てをまつらの松のくもあれ

源家長朝臣

こゝろ海の神の添ふ舟さを水内の亀を祈るとも

高野法師

石見なる海ちへそくゆく毎のよそにうの海の浦の松の火

百首歌たてまつる二見の浦をよみ侍りける

正三位家衡

わ恋ふ海ゆくもをそ次二てんゝ人ゝ神小浪をひ

鄙ちく次

徳倉太夫

ちくさちの、そのゝ山ゝ杉乃色ふかゝ松とかなゝ山乃

四大臣より乃ち時家ゝ百そ言葉伝乃ち小石川迄と

お開白

ゆ毎ゝ色を

ゆ乃ちきに道理乃さ称乃ち人間乃ゝ

ひさ乃ゝ乃ちゝ乃ち乃ち乃ち乃ち神乃ちゝ

指中納言定家

人乃ち乃ち清ゝ乃ち人乃ちゝ乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

正三位家隆

忘乃ちゝ乃ち波ゝ波乃ちゝ乃ち清流乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち乃ち

新勅撰和歌集巻第十四

戀歌四

題不知　　人麿

名にしおはばあきの田をかりそめにかりそめ人の恋しきかな

小町

あはぬ人をしのぶの草のかりねにもなほ夢にだにみえこしなとは

左京大夫藤春

忘れぬとなげくなかのうきいねにあはぬ夜ふかき月をみるかな

題不知　　人不知

うらとはしらぬ人をこそ思へとなれはうらをしらぬ人とこそ思へ

後徳大

なにはがたみをかくしてはなにはがたみをかくしてはなにはがたみをかくしてはな

あつさちいきこえたりとこそ昔人も思ひ出でたるなれ
いせの海の名のゆかしきかたくてあさひの見えそめしより
ゆきてみんとおもふ川さかのさまもうつりもてゆく浪のあと
あり家の開かれたるこそ海をへだてゝ家ちのかしん

答歌　元良親王

なよせけるうらもうつりもてゆく
はるかにこそくいみるもこれはあらしとそこふ

平中興女

開けぬる岩さきとて歌あるあさひ
はるかにこそ
櫻あさけたちのゝ下草歌
はるかにこそ

よるべ人をもとめ
ゆんなれや知るも

歌歌あるこゝろもとめしかとも我とゆるの第歌
いまはそてはとろく家あるふ人のさらに西色とる水

人丸

玉藻のあゆさけて遠ゝ近ゝ人をまつらしもる
ちゝ人をもとめ

夕されば道たとて月紅ゝ重ねてこそ
ちゝ人をもとめ

元まりと我恋を思はるる宿のとゝろかうこゝ秋風歌

顕田王

伝生忠岑

もとくるもいさ白雲よ方をなしてあるあらん

俊頼は今たゝ初をゝくとも見てしらぬたゝ
う初めまちわく右近のきさいはゝにまうい
けるに人と給ひけるに初めてたちうゝ給ふ

宗女明日香

みうさ山きくくもこゝ見ぬたゝ人ゝ来ゆてゝ新て見ぬ
米さいうゝ見ぬたゝに山ゝうゝひきう時さゝに出給て

九条右大臣頼ゝ持よ給ふ分よりうゝけう

右近

ちひみとは奥しほゝふみ出よゝけう出と勇ゝもゝ
て

清信公かねよ給きう時けうゝきう

式部卿敦慶親王家大和

走ゝさのかよゝ歌のあゝはゝゝ身ゝゝう

思て知給きう時

内親王 ます

歌たけと第九ゝ見ゝと拾ゝく元ゝ歌ゝ

中務

男のゝ人ゝ公ゝゝゝゝはゝゝ拾ゝゝかゝゝく
あゝゝゝ歌まうて給ゝゝゝ男ゝ元ゝ
歌しゝ次

二条大皇大后宮大武

風ゝけ、見ゝたゝゝゝ言ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

城河流より船書の写をとりて

人丸の神を祭りけるとかふこと

[illegible]

[illegible]山の下り第、船やとり船

同船にて読侍る

[illegible]

百首歌よみ侍りける名所恋

[illegible]

同治四位

大納言忠教

権中納言俊忠

前開白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍従具定母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

逢不遇恋

二条院讃岐

同月十五夜月を白露はきてはこすかとかこちん

新しら波

入道前太政大臣

忘れぬよ我こはこすかとてこの宿しもとまりもとめ

鶴岡右大臣

[illegible]

前大納言隆房

[illegible]

兼蓮法師

[illegible]

花とてさかりなりこしひぬ秋中の春をく野と成はをしの

花原行雄朝臣

長月の月毎にあはれてのこの葉をかなしのひのをそてをのき

[illegible]

三[illegible]

八条院の命

吹[illegible]

[illegible]

後鳥羽院

秋逢てつ[illegible]

[illegible]

萩のうつの偽をみてとかうのうたを題よ多くの神祇をあ
りなん高山のをゝ多やかうてれん所毎にまさ海を乃波よ

内大臣

もろ人の袖をそめよ色四時をなびもをむ

侍従昊宣母

ちしらの波

なを遠くて姫よ高き紙をとゝ家のをもうゝ宝月新

中宮伯馬

月前のうつをの方けまに人乃ゝうて新よ志ひて

藤原教雅朝臣

面うけ花紙を四月前に如重くうつ祈ふ神のあさ家

前参議季朝臣

白妙のをゝ衣を紙をて新くひとりや初なむいふひて

恋ふあまさ侍伯乃ゝふ

民部卿範

なひしをやまさうゝ乃さ初前より物をもきて人の世とは

伯従昊宣母

如人て高き哭こを姫風よひとりて人家乃花を

法花幸清

うゝ乃ゝ前ゝ乃をて新あさ人のまれなりあよ色のよをふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原惟成

題しらず

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅撰和歌集巻第十五

戀歌五

陸奥国よりまうのぼりて女のもとにつかはす

業平朝臣

ちはやぶるかみのいがきをこえかねてみちのくにまでなるとこたへよ

頭中将より伊勢の斎宮のもとにつかはしける

女のもとにつかはす

徳仁

ちはやぶるかみのいがきをこえかねてみちのくにまでなるとこたへよ

殖人しる歌

いとそこなかなかなるはあまのはしたてのかりねにたにもあらじ

影之歌

あやめもしらぬ恋をするかな

いとそこなかなかなるはあまのはしたてのかりねにたにもあらじ

むかしのあしたちかふそこなかなかなるはあまのはしたてのかりねにたにもあらじ

むかしのあしたちかふそこなかなかなるはあまのはしたてのかりねにたにもあらじ

人をこそしのぶすんもうりはしりこしかりしはしりこしかりしはしりこしかりし

月ちらす桜の枝をこそ
ちるまでみるにいとゞ月の
こぬ人を月のなさけやむしの
さもあらぬ心ぞ升みつも山乃ぬしの月と示
そのかつらぬ秋ハ人も久堅の月を
なのしの屋の心を見にたりに

湯原王

賀之

和泉式部

若葉右衛門

冬宰大弐ゟ遠

遠江

遠江紙たゝめぬよ
かゝ

遠江

ゆゝしの月のなかめ
ぬよりいとゝ
さ

相模

なゝとゝ月ゆゝそのむゝ
法性寺入道前関白内大臣ゟ給ゝ時小倉に言合
給ゝ

城内院中文上紙

[illegible]

月をゑとゝ[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

二条院讃岐

[illegible]

建保六年内裏百首

[illegible]

新陽門院越前

[illegible]

正三位家隆

[illegible]

殷富門院大輔

[illegible]

[illegible]

権大納言家良

[illegible]

後京極摂政前太政大臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建暦二年内裏百首

正三位家隆

[illegible]

[illegible]

大蔵卿有家

[illegible]

百首哥

弐条四納言

[illegible]

影〻次

大納言実家

[illegible]

[illegible]

左近中将 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

五百番うた合よ　二条院讃岐

ものとはなしてこそのみうりきうの奏うの

藤原重頼女

恋ゝもたゝもゝ世を奏のうゝうゝるもゆゝ神の

夏来ぬとい初ゆゝとうゝ仏ゆゝ

按察使兼宗

夜出もゝ月ゝ出たのゝゝ月ゝ知ゝゝ月ゝ見ゝ

権大納言家良

題しらず

春のゝ月ゝ山ゝ月ゝ出ゝ月ゝ見ゝ

建保六年内裏うた合よ

ゝ事ゝ思ゝ月ゝ夜ゝ月ゝ

従三位範宗

つゝゝゝ神ゝ社ゝ出ゝ月ゝ

題しらず

従三位頼兼

ゝ月ゝ

方角白家うた合ゝ山家ゝ月ゝ

ゝ月ゝ

二位三位知家

ゝ月ゝ山ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

建保三年内裏うた合よ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首歌合に

梅宗使為宗

今こそ木葉ちりしく山の風なれ

百首歌たてまつりし時

大炊御門右大臣

はるくとたつる波の形ゆゑ

皇太后宮大夫俊成

いふをもむすぶ心そとうらもてうつる

侍賢門院堀河

うらみ侍りし人の心をとはんとて

新しらべ

経三位範宗

金時は雲井の月日はるかなる中にゆきめぐりて

遠方の月をしる

為家資季朝臣

傷ましき紫野のいなかぶとはつとりもせぬかりの人とまる

文暦百首歌合に

はつかりの山ちかくなるこの方にあまの

源具親朝臣

後の世とそのむしたのもとにあるとまる

為家永光

はるかに

遁世しぬる人よりもあるとまりてとたのもしき

津守国冬

[illegible]

賀茂季保

[illegible]

歸命頂禮

浄覚法師

[illegible]

右清門僧為家百首[illegible]

下野

[illegible]

開白[illegible]家百首[illegible]

遂不遇恋

法三位範宗

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同月廿五日院吹あはせとうたのこと
中納言定頼公の車をみをたてて伯氏
よりの　　猿人くら次
あさ人のかりをとをさうはいこきさみ桜の白さうん
強盗五位人かねよりの時分時奈年人ふて宅の
ていう侍のかれ物乃人宅の車のおようらりく
山道をしひてこゝはは道は
みあてゝ物をけるもむ者ふて家よ祇ふうみ〜地を
同人年人そちうをたうそう車ふをを伯氏
女院伯姫

そう者きてう宅ふ中たを紅ゝけ紅て色、ゝう色の
宅ゝう伯けう東桜宴文家よつゝ〜きう
色乃ふの宅てけの行ゝしをゝ侍ゝを見に知ゝ乃ん
内色〜　　更衣　正妃
色妃東孫栄ゝ〜ゝ文ゝたゝ乃ゝ乃ゝ宅妃ゝをなまえ
女よゝけゝう宅ゝ　　中納言朝忠
ゝ猫ゝの若ふゝてゝこはまゝけゝう伯ゝ世ゝけゝうゝをゝなまるふ
歌ゝ〜次　　文孝天皇ゝ御製
山川のゝ屋ゝゝをゝゝ文ゝゝゝ文ゝゝゝ

秋深く書戸をとぢて行ふ人をも
是八幡宮
法性寺入道前関白太政大臣
秋ふかき水鶏なくなる木戸ごとに
たゝぬ
定武朝臣
たゝぬしをはるゝてくる鶏ゆゑいかに
鶏不知
相模
我をこそ忘れもはてぬ秋の夜の
貫之
花すゝきてをれかなる袖をもふかく

新勅撰和歌集巻第十六

雑歌一

[illegible]

選子内親王

山里の花のあるじはいかなれや雪をあるじに[illegible]

須子内親王家桜津

君なきは源山の雪に住人のかなしむ[illegible]

式子内親王

君濃くうつりにしかな初草の[illegible]

入道二品親王道助

春日野の小松[illegible]

前大僧正慈円

[illegible]

般富門院大輔

[illegible]

二条院讃岐

[illegible]

桜宮使隆衡

[illegible]

権大納言家良

みよし野の山のさくらもむ春ごとに見あくまもなき年の古さ

開白左大臣家百首歌 伯耆

中務卿親王

さかりなる梅の花にうぐひすの来ゐてなくなる山ぢかの里

影もうつる

賀茂成助

梅のはなのきぬぎぬは白雪の山ぢかくふるとぞうたがふ

寿永の比ひとり梅花をよめる 伯耆

九条にかちかへる梅のはなみくれば白雪にまがふ春の夜の月

前宮内大臣

前宮白河大臣より伯耆の時百首歌よませ給ひけるに

庭梅をよめる

源信定卿

宿るべき花の枝をこそ思へ春の夜の月の影ばかりは

下野

春の夜の月かげさやかにさしいでぬる梅のはなのうへにすむ

紀念法師

ひとりぬる山ぢの窓のつれづれに月にあかしの夜の風ぞ吹く

百首歌よませ給ける時 伯耆

春の月ひとりぬる夜の梅の花にしらぬ人にまがへて

侍従具定

古御門院御会に春の月を読ける

義明門院小宰相

たづねてとの嶺より月ぞかすめる　なれぬ山ぢのあけぼの霞

東山よこ川殿のさくらの花を見侍るに

前大納言忠良

ゆきとのみ花をもなぐさむるかな　山ぢのあけぼの霞

西園寺にて三十首うたよみ侍りし春の

入道前太政大臣

櫻嶺の月にいるかとうたがはん　花の雪のあけぼのの霞

春の花とうたがふ心をよみ侍りし

祝部成茂

春風のくもりの花ちりぬるかぜ　ゆきかとうたがはしさ

彩雲の知

如覚法師

あさなりとかすみのうらの山櫻　なれぬ雲のあけぼの

春風のうちとけてとはいふ山里に　ちりのこりて侍りし

花とみて読侍りし

大納言光頼

いとゞ春ぞ　ちりのこりてもうゝ雪ふかきかりのそすの

二条院御時百首よみて侍りし時の

参議雅経

春の雪人とて南殿の花をみて　旧侍冊侍りし

けりしもの

前右兵衛督信実

ちりぬよりなれぬ雪の櫻もう　勝ちうゝに成と

世尊のまへにて花開敷寺にまうでて西行法に大内
の花の樹にうつりよりて行方を思いとうしい人
行て頼政所にたちてしけり

望太后宮大夫俊成

八月十五夜月前花

たち

雲のたちもむすばれぬ出いるかたをわすれて
浦風ぞ云ふのみ吹ゆるけふ花をみる
行方

宗延法師

ふるさと花ぞ昔にかはらぬ人ぞ行方知らぬ

花をみて頼政卿

年重時

年毎に人にうつりぬ木の花も昔の春に行方
知れぬ

源光行

君ぞうきをもよりとぞ木の花の散るこそあれ
散しらす

藤原頼氏朝臣

たちてきの根山にうつる春毎に咲ぬ
花の頼政卿

前大僧正慈円

春雨山吹の花くれなゐ
因花とい
花をとはゝ
桜襲使慈宗

いとしく花を君とてうゑの庭乃雪乃ゝ跡そこに残る

落花をとゝ乃ゝ　入道前太政大臣

花乃ゝ雪ふるゝ乃庭乃雪ゝ乃跡ゝ乃ゝ乃ゝ

侍従具定母

雪乃ゝ乃

ゝ乃ゝ乃ゝ乃

[illegible]
[illegible]
[illegible]

太政大将道綱母

[illegible]
[illegible]

東三條院

[illegible]
[illegible]
[illegible]

橘中納言定頼

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原教長

[illegible]
[illegible]
[illegible]

橘為仲朝臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原教成

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原信実朝臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源季広

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原教康

[illegible]
[illegible]
[illegible]

祝部成茂

[illegible]
[illegible]
[illegible]

橘為信朝臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原信実朝臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

源季広

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

影不知　　鶴念右大臣

[illegible]

月前懷舊　　入道前太政大臣

[illegible]

家よ[illegible]前[illegible]

[illegible]秋[illegible]

入[illegible]二[illegible]新[illegible]道助

[illegible]月[illegible]

[illegible]

[illegible]

いかはらえの月を見侍りしに
世をのがれて山にこもりはべりしのち
山にはべりしころ
秋の月
入道前太政大臣
雲のゐるはるかなる山のはの月にみなれて
月前述懐
西行法師
あらしさわぐ月のかげかな
法印慶忠
月前述懐
法印定為
ながめつる秋ぞ老ぬる
月前述懐
西三位家隆
ながめてはいかにせよとか
月前述懐
源家長卿
ながめよとかたぶく神の月ぞ
秋延法師
ながめ侍りしに月の明くるまで
侍従具定母
ながめしかの人の
殿留門院太皇
月前述懐
楽府を題にして
源光行

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹風を枝よりさそひ代々重ねしはちる葉の色をとゝて重
前兵白四大臣小倉百首哥合時家卿百首哥
菅秋哥　源有長卿
紅葉ゝのちるを惜み毎月題の道と惜乃ゆく秋人
建保三年六月哥合に曉時雨といふ題を兼行
哥乃
曉とうゝ見ゝ人かゝとてうたゝ寝の夢生ける前
もゝ色はまとゝ色ゝてゝ山乃時雨にさとる月乃月
影不知　源泰光朝臣
かゝて世小ゝ乃月時雨ゝちゝてゝ花乃色ゝかゝてゝ
冬哥猿丸乃小　相模
木葉ちゝ乃ゝ月の吹ゝ嵐ゝ山ゝ時雨乃ゝ月
歌事始ける時りみちの哥を読ける
前大納言公任
りみちの毎ゝてゝ山ゝ時雨ゝ月ゝ嵐ゝ
冬の時里に生く大納言三位よりゝ乃
定式部
う紅葉ゝ水乃上ゝ流ゝ時乃上ゝ色ゝ
やゝ　注三位廣子

打ちて無なれどもの神笑あいて歌ども詠まき

歌の初　相模

冬ながら秋の色かとさしかはりとむらもみぢて秋よりの来

六条右大臣小忌宰相にて出仕よりの朝ぼらけ　康資王母

とゆふ家の雪つもりぬとみるやはらけつかつ雪ふりにもあ

ぬ　六条右大臣

ゆりてたれ人間ふらもとこ安うの日新めとものこ行

新嘗会を後朝の　中納言家持

為の山下はるけかつ影うつる色やはふむ風もあるもむ

百首歌　沈み四郎重

雪降風冴をはらを冬乃よ月ともあ花をみく　月新

太後の法橋中納言定頼四ふ[illegible]につ[illegible]

見人しら涙

はるけさとしてもらは人おもひてこそ[illegible]月

歌事作るとものもあく作り毫は皇太后宮大夫

後成りていつるて来海

右近中将五衡

冬こそり秋うさはたてこそ[illegible]

歌不知

[illegible]

伊勢太神

[illegible]

選子内親王家宰相

[illegible]

選子内親王

[illegible]

殷富門院大輔

[illegible]

入道親王家わらはを花とて[illegible]

法花経寛

[illegible]

年の[illegible]

[illegible]

寂延法師

[illegible]

行念法師

[illegible]

寂超法師

[illegible]

相模

[illegible]

かたり給へ八年乃をとりの歳よりの我身乃そ秋
てくらの水

新勅撰和歌集巻第十七

雜歌二

影不知　　業平朝臣

ゆ神八年乃ゆ乃ゆ乃ゆ

相模

後頼朝公

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源師光

ゆく末しかくらむ月とも初めて秋をうち捨の月にてきん

年ゆたかなる時をもめぐる百を数ふるかぞ述

懐奇

前大僧正慈円

[illegible]

大僧正行尊

かはらじとかねてしれるものゆへにうつろふ花のいとをしきかな

世中にさかぬ人こそなかりけれ

信西入道

つくるかぬ十万億土にいかでかは花をもとめぬ人のあるべき

如形法師

[illegible]

藤原定俊朝臣

[illegible]

[illegible]

後法大寺左大臣

[illegible]

右大臣よりの時百首の歌ばかりに述懐奇

後法性寺入道前関白太政大臣

[illegible]

述懷のこころを詠ける　左近中将公衡

[illegible]

影の知

さてもいはしの世界にすむ人の世界のかなしさ

後京極摂政前太政大臣

[illegible]

女集天可度のこころをよめる

兼蓮法師

[illegible]

[illegible]

藤原行能卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

酬朝雲山よりのぼりて延暦寺行幸を行うて侯伯

[illegible]

中原師季

名残をもとゝはむ[illegible]

[illegible]

内大臣より百首の小述懐の心を

前関白

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内大臣

[illegible]

宣家公の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権中納言宣家母

[illegible]

[illegible]

二条院讃岐

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

頼信卿

雲井より遠の藤の毛衣ぬさ捨てゆくかりのひたすら
年ねよ行く末幸ねよなりて田舎ぶり田舎ぶり
ものとふつつ

頼清公

行きかたの雲の上をも通ひてゆ月をもすまし
老人のくからの行てゆくゆくと思ひ
年へぬる雲の上をも見てゆくのいなかゆすまむとたん
きこうめてお思せ給ふ

藤原相如

道信卿

雲井より遠の藤の毛衣ぬさ捨てゆくかりのひたすら
年ねよ行く末幸ねよなりて田舎ぶり田舎ぶり

源融院御製

行幸よさこうく大ねこて年ひさくくかりの事を
雲の中にのいつを行ゆ

田大臣

忘れやすいの花衣はさてゆくゆくみてゆくかりの
雲の涙ひさくくをもつ行くはるかよつき
行くゆ祝ものこにさいて出ゆ行ゆ

橘中納言宣

おさまれる民のけさはさもつきはてひきくくを春なれ

関白左大臣家百首歌たてまつりける時

百敷のこずえをつたふ時雨にまがふ紅葉の色かな

建保四年百首歌奉りける

参議雅経

うすぎりのたちこめてのどかなる春の夕べの山の端の月

日吉の社にて述懐の心を詠ける

正三位知家

あづまのゆ対ゐる我をやさくらゆゑ人の訪はなくに

暁ごとに猿の鳴くを聞きて

前中納言定房

思ひもてあれにて宿の長夜をいかにいかなる物ぞ

暁述懐の心を詠ける

按察使隆衡

筆のすさびにかかるにて昔うつる人をもしのぶ夢の

参議雅経

名残とよりゆく春の暮の筆のあとにかたるなるべし

前大僧正慈円

遠樹雲と山の端を

入道二品親王尊助

とりをの山風のみなれ行くかなかの春の

暁述懐の心を詠ける

正三位家隆

[illegible]

法橋 行賢

[illegible]

題不知

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

方樂とうら伯[illegible]

[illegible]

上西門院武蔵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

平行盛

[illegible]

法眼宗圓

[illegible]

行念法師

[illegible]

[illegible]

皇太后宮大夫俊成

[illegible]

西行法師

[illegible]

源氏の地名をかきてよめる

[illegible]

皇一位羅子

[illegible]

和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元

新勅撰和歌集巻第十八

雜奇三

世[illegible]月一日法[illegible]

法成寺入道前太政大臣

[illegible]

法一位 伊子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
高之橋河はゐきろかゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

右近中將成信三井寺にまうでて出家し給ふけるよ

將來[illegible]

一條大宮宅

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

右近大將道綱母

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中務

少ゝ二ツ地ゝ有ゝて者ゝ有ゝ者ゝ有ゝ事ゝ

伯耆

大納言清蔭

[illegible]世はゝ[illegible]ゝ形ゝを[illegible]ゝ人ゝの春ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

後一条院の御さいの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ年の[illegible]

かの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

かたらひて[illegible]

朝ゆふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとゝく花ちる春のあらし哉　かゝる人の神ハ有まじ

　　貫之

　　影不知

さゝなみ寄て逢て分ぬる白雲の山のこなたハたゝ人ハ

みなし

　　人丸

白雲の立てのぼる山よりハ雲ハ我ゆゑ絶ぬ

　　同

白雲の居るにしの方ハ我ゆゑ絶ぬ

　　行平

　　彩不知

白露もすゝやすゝと花落るゝ人ハ見ぬ物ハ

　　彩不知

　　相模

　　強徳云

物ゝの花よ屋と物ゝ物ゝ物ゝ

ほとゝぎす 俊成卿

ほとゝぎす 俊成卿

なき人の思ひ出にせよ山ほとゝぎす

西三位 家隆

なき人の思ひ出を佛とせよ山ほとゝぎす

前大納言 定良

かゝれとは思ひもよらぬ三笠山 春日の月の

歌ゆゑ道は長安のゆく末 中納言

道三位 雅経

なき人の月ぞ秋の月ぞ 俊成卿

入道前太政大臣

なき人をなつかしぶくよ月ぞ 俊成卿

八条院高倉

かたらくまたく月の方式面影 有もれ世を 年 無 ん

五条朝臣母方四位 ふ 月 時 大臣 の 許 よ り た

一首

大納言実家

さてもなほ 有 ま ま 長 ま ま 有 ま ま ば ま

やう

後法皇大臣

なほてく長うくうるはしく 有 ま ま ま ま ま ま

参議通宗朝臣方四位 ま ま ま ま ま ま

なる文を母方 ま ま ま ま ま ま

方小生ハ一こと三世新知人と志のつゝさ拾ことはまつゝ後ハ
皇都門跡かゝ皇さ在拾ようけつ後の去言会後去れ
ゝて皇紀行しきろより後感ハ弁ハ作ろ〜きろ

坂法性寺入道前関白太政官

世乃拾ひまてさて山よ拾けつ時ゝ見拾ろ

内大臣

白玉かゝ知ようゝろひ乃ゝ未すゝ見ゝろ神去ハ時毎よ
関是ゝて〜後拾きろ

大納言通具

有拾ろ紀ハ六ゝろ拾ゝ志ゝ皇紀新ゝ作ろ拾ゝ
屋まひよゝ志ゝ拾ろ法新ハ拾ろ拾ゝ安て
春宮法師ハ弁よゝ作ろ〜きろ

賀茂重保

知ろ乃家の乃ろ乃ゝ見ゝ皇ゝ作ろ人ゝろの き

坂京極摂政かゝ紀拾ハ宮ろ時ゝ拾ろ拾け

藤原親康

うゝ作の三ゝ見ゝはゝて〜ゝ作ろ〜ゝ乃ゝ作ろ拾ハ
賀茂重保乃ゝ作ろて法〜ゝ拾ろ拾ゝ
ゝ乃ゝ拾ハ四ゝ乃ゝ拾ゝ遇友遇友ゝ拾ゝ見ゝ後拾

小さかの　　栄盛法師

うらむなてさしかの宿を昔とて花の新のこそあるかの
　　古代の名てはの水を迷惑と人を頼のきの

藤原親盛

かたらはせくらけよ昔の恋しきなをむとふ石井の水
　　新しき源

　　お大納言光頼

ゆくへのむすまよみこの山の井のいまとさむ世をうらん
　　光の母の勇まるかの頼のきの

小さまりの勇を表らく世の頼なを別をいくさ世

　　法印栄寛

　　平信盤

　　法蓮法師

　　入道大納言のおしの頼のきの

　　僧正覚円

　　左近中将基良

　　法印定円

うゝとてきうるを伯耆守よりの
法京房状
いふもんそのまゝ本法の状にあらず
小伯法勇きうるゝ所ゝ
法京昭法
うゝ
大弁基賢勇海うるゝ時補佐せる侍伯耆よ
頼伯けう
中院右大臣雅忠きう
別うゝはくうゝ
八条院かんまゝ
法京信実別信

てゝ伯きうゝ
薩摩信実別信
関うゝをゝかきうゝ
文勇海うゝて清川ゝ
けうゝ
平泰時
山ゝふかゝ
蓮生法師
かんゝ
文集収愛自警院者仏別離
八条院

[illegible]

行念法師

[illegible]

[illegible]

前大僧正慈鎮

[illegible]

新勅撰和歌集巻第十九

雜歌四

[illegible]

中納言通忠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春日社より百首の歌をすゝめける折柄

従二位大夫俊宗

秋出て伏見をこのゆふさゝぬ先らはしひつかたの橋

百首歌よみ侍りしに早秋哥

内大臣

吹そむる春さしかたの山しろの松のあきの初風

建保三年百首哥つかまつりし時

僧正行意

山たかみ松の梢の秋風の吹ぬ夕ぞ人まちがほなる

右兵衛督為家卿

身にしらぬ秋の夕ぞ哀なる

下葉色〻そめかへるらん

藤原清輔朝臣

初しぐれ時せの雲も晴ぬ秋の夕風

道不知

世中なに大和なるみかの原ふる人をとふ

中納言家持

みかの原ふるの川のとのきなる秋をゝしらぬ人のかなしさ

入道右大臣

春は花冬は雪とぞ思ふ雪花の山

正三位家隆

八月廿の夜くもなきよまに言葉てかつの新のうちしめん
方寄白雲に合ふ春和月

源家長卿

清くみたるさけ、まやみのさ山りうしてけく清る月新
百首に續後拾

法皇摂政太政大臣

久堅の空澄みわたり伊勢の山吉はらと見の月てかりもろ
題しらず

よみ人しらず

八月廿八夜ちいよゆん住の江の岸よりて遠里すま遠
和泉式部

住吉の松の根ふる月かな。

亭子院の御うたの小法師のうたまつる住吉の濱ふく
續後拾

一條太大臣

すみよしの濱よ吹ふる風ふる塩に月の花咲ふ
新古今よりの濱ふく續後拾

大寿殿御乳母

難波ぬ塩に月や面の文美い書白紙の新に流ふ
題流に月よりけり

よみ人しらず

水の面に月の影なれ桂ふ月ふ月ふ月
若一面ふ月ふ月の面の面

四三位家隆

[illegible]

布引の滝をよめる　前参議行能朝臣

布引の滝のたえてはつかしの
百首哥の紅葉をよめる　入道前太政大臣

たえぬ家まで色のまさに深てなりぬる秋のいろ林
伊勢国小みゆきの時よめる　安貴王

世乃海は曇なきなれはなれすりたてしいそ家つとふもむ
恋哥とて伯耆の中ふ

伊勢の海はるかにみまそてこゆるこゑ浪のひまはのこえ
名取哥とてけるふとくの心　四三位　家隆

秋ふく成よりはすかしのみ山と始りまつしたく
春浦月とて伯耆の心をよめる　大弐三有家

あつさちいちの浦は春月ありまの山くまの縄ちをひく也
ちりとかりわたりあくるこゑ伯耆　家長卿

中務

[illegible]

前関白家会合名和月を題仙客

四三位藤隆

ひかりをそへぬ[illegible]の月よ[illegible]ぬ[illegible]秋をかぎりは[illegible]さ夢中山

[illegible]

従二位藤原定家朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

小町

[illegible]

よる人人[illegible]

[illegible]

前大僧正慈円

[illegible]

[illegible]

法師

天禄元年大嘗会悠紀方屏風歌

清原元輔

[illegible]

山[illegible]

前大僧正慈円

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊勢物語に甲賀のむまうまなどは付給ふ日

後京極摂政太政大臣

[illegible]

新しう次

[illegible]

よし人しうす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌しる次　　秋篠成茂

ちるもみぢのもるかぜ物とそ月のみそのうらはるる酒

寄嘉題をよめる　　寂蓮法師

思ふ山宋聚をそ見く下葉に物さしのこる秋の色ホ

歌の次　　平政村

玄来好の木ちさ物ちさ物ちさ夕秋を源よ世ちる物くの人

ち雁の時法師風寄

ひとちも名よ降ちる山ちも井ち雲はさ物ちの下

百首ちを寄題　　源信明朝臣

かきちる雲ちの雲ちにちる雲ちにちる雲ちにちる山

歌不知　　大納言師頼

朝ちをふいちをのちるみぢ源ちさ人よ意見てちる

ちる人ちる源

前関白家ちを合ふ若和月といふちを

夕ちれよめちるこちるみちを意ふやちをちをちを月ち

歌不知　　四大臣

ちもちる秋のむちる未ちるちて小達ちふ長ちれんや

大納言橘人

後京極摂政前太政大臣

涙こぼれもてあのせとにゆく舟のうらせよ沖つ塩せ

入道右大政大臣

芸州の宮島に詣でまして浦にて

見人たち浦

いそのたなびきとしてとて紀の国の中なる城ヶ崎

をうち舟出こぎ入るに浦かたに海小さきうらあり

時雨ふる八幡とて松ふく風の音と波の音とをうちそ

ふる

お兼沢教長

波とうち寄せの浦の中風よみ寄せもとつ新

城川院より百首うたまけり時山寄

権中納言国信

ありとみとりかとうたうたうたうたうたうたうたうたうたう

百首歌吟陸奥の心をよめる

入道前太政大臣

うたかたの浦とうたうたうたうたうたうたうたうたうたう

新古和

七条院大納言

行雲野のうたうたうたうたうたうたうたうたうたう

後京極摂政家百首より草三十首よりうたうたう

寂蓮法師

風ふけば波打つる岩まの菊は露ばかりもなくてちりけり

家の十文首うりの見侍りに映霞隔海と題

をよみ侍りける　中務入道右大臣

わたり海こゆるうら波たちこめて夕霧ふれ

和歌所海辺霞　前内大臣

海原遥にかすみをとふる春の浦人

漁火遠ざかりの頃ゆ侍りける　権人不知

影をうつす波

たつの山まよ頃やきて物塩のかぜとも秋いすかの

ぬれ海人のうら塩風さえ侍りけるとてうたよみ侍

る大僧正慈円

霧たゝく打寄の花ふかこれ出てまてはれ出る月の

秋山庵とい侍りける心をよみ侍りける

正三位知家

わたり山色かたゆく枯風はかまとゆく鹿の声をこそ

聞

新勅撰和歌集巻第二十

雑奇五

源政長朝臣家にて人々すゝめ侍りし初冬述懐といへるうたとよみ侍り

源俊頼朝臣

やまさとは　冬ぞたえぬる　かれゝつゝ　ゆきのみこもる　ものとおもへば

こゝろなき　草のかれゝに　ゆきをのみ　ふるとはなしに　ものをこそおもへ

むかしをも　思ひいでゝ　ものかなし　ふるきみやこの　ゆきのあけぼの

あはれなり　いまは我身の　なげきをば　うゝつけくゝ　ゆきのあけぼの

くさゝへて　君ぞふりぬる　年ぬるの　ゆきのあけぼの

ゆきのあけぼの　ひとりまつ人を　ぬれてまつ　ゆきのあけぼの

我ぞまつらん

ゆきのあけぼの

いくゝ年　ふりぬるとしの　ゆきのあけぼの　ふるとしの　ゆきのあけぼの

久安百首うたなりけるうち

皇太后宮大夫俊成

雲海の　風にしたがひ　吹たゝむ　そらにぞ　ゆきの　ふりぬる

神代より　かゝる作の　ゆきのあけぼの　ふるとしの　ゆきのあけぼの

いまもなほ　ふるとしの　ゆきのあけぼの　枝もたわゝに　ゆきのあけぼの

むかしの　ゆきのあけぼの　ふるとしの　ゆきのあけぼの　ゆきのあけぼの

かきつばた
枕そひて
たゝなはる
あら代は
むりまつの
ちりさまを
まろやま
来なまや
ちりえて
ゆく春の

この海ゝを
すこし西へ
行ては
ちまの
ゆく春の
ちりかゝる
ちつるとは
かゝる
寄るなく
山の花も
下ゆく水
こゝ紙を

ゆく春の海人
ゆく春の
こゝろを
みさきに
みよまれぬ
花人も
いふ
ふるもこゝ
川のこゝ
ゆく春の門

ちりこゝ
こゝ
いつく
月の
むらさき
あやめ
かりこゝ
立ゝ
ゆく
なれつ

花の
桜は
ちとせ
ゆく
むらさき
たゝふ
たゝ
かゝ
こゝ
ちゝ

花ひとく
人とのを
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ
ちゝ

反哥

山河の世々ふるさかしほとりに名をのこしけれ

清姫物語

はるばるとゆきすぎくるしほとりに
なびきもとほる
うらまつ
ゆくえなく
うらみまつ
さく花の
ちりぬるを
はかなき
思いてうく
うらみをつと

こはさて
ちくあるとも
ゆくすゑの
はかなきあい
うらみをも
かりそめの
こはうらみ
ちくあるとも
ゆくすゑの
はかなきあい
うらみをも
かりそめの
こはうらみ
ちくあるとも
ゆくすゑの
はかなきあい
うらみをも
かりそめの

吉はされ
ちくせども
ふかこころ
なりて

秋かぜの
風はこころ
むすびさえ
ちりくと

色をたちぬく
たいらへて
うれぬるかぬ
ぬりまとて

西門院無常

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

躬恒

[illegible]

二条太皇大后宮大武

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かすみ

清輔朝臣

むつことはさてゐるあしの雪ふかきさはの春のあけぼの

花園左大臣家大進

春はまだ人なかるくかすめるは雪ぞやうかけの柴の戸

かすみ

さそふ花ゆきとうとを伯きの

法三位頼政

むさぶ風ふきてしぼるこのゆふ波のはるかぜ

かすみ

ちるさくらはるかぜふかけるあよ雪のたまのうてそと

藤後

物名 源伯きの朝臣にやまとことばかるた

後徳大寺左大臣

みるとやまよりこえぬふ吹塩風よりまの松ハ浪やかくらん

きんのこと

殷富門院大輔

かすを家ちるものからよ深くこそ春ふかくなれ

みてさらに立ちまよふ

源有仲

荷ヶ山の雲ハ意よりあさりの庭よ暗乃ふ立ちまて

ちさりとふ風ふくこと人のよまを伯きの

鴨光義

雪ふとてきりとふ山よ時雨ゆかとをくとを嚴島

[illegible]に伯はせ、稚大納云云賞の許よりの
[illegible]
後頼朝卿
[illegible]の小山田[illegible]
[illegible]
[illegible]

春乃そらのかすみ家よりいづくにか偽の
聖霞をそなへ先帝をとそなるめをとけ
乃ゆくえをかくしわすれ給ひ給へそのやまとと
中て積給ふ

大僧正釈巌

そのかの山ちかき所にかの小松よ
ゆくへをたづねて